

## 「平和」のために

石垣市立大本小学校六年 当銘 航羽

月桃が咲き香り

ほほにあたる風が気持ちいい。

アカシヨウビンの鳴き声とともに

今年も六月がやって来る。

でも、ぼくにとつて、いつもとちがう六月。

重機の音が鳴りひびき、ダンプカーが何台も行きかう。

たくさんの「反対」「賛成」の看板と旗。

沖縄一のおもと岳に囲まれ、パイン畑やサトウ

キビ畑が広がる。

カンムリワシがゆうゆうと空をまう。

大好きな学校があるおだやかだった地域。

大好きな祖父母が暮らすおだやかだった地域。

山がけずられ、自然がこわされ

どンドン、変わっていく。

変わっていくことが、悲しい。

そして、怖い。

戦後、先人達が苦勞して作りあげたこの地域に、

「基地」が作られようとしている。

先人達はどう思うだろう。

「基地」ができることを喜んでいるだろうか。

きっと、怒りと悲しみでいっぱいにはちがいない。

先人達の声を聞こう。

先人達の思いを感じとろう。

「基地」が作られることで、島が二つに分かれている。

とても、悲しい。

ぼくには、どっちが正しくて、どっちが正しくないか分からない。

でも、一つだけ分かることがある。

それは「平和」ではないということ。

一人一人の意見を認め合い、誰一人いやな思いをしない、おだやかな島になることが、

ぼくが思う「平和」。

日本中、世界中から「基地」が無くなるのが、

ぼくが思う「平和」。

大人、子供関係なく「平和」について、考える

ことはできる。考えることをやめてはいけない。

月桃が咲き香る六月。

ぼくは、「平和」について、みんなと考え続けていきたい。